

春めく 夢と元気印の牧野台地

一長崎県諫早市一

江 口 徳 郎

1. 地域の概況

諫早市は、長崎県本土のほぼ中央に位置し、東西南 三方が海に面し、北は多良岳の秀峰を仰ぎ、4本の国 道と JR、島原鉄道が交わる交通の要衝である。

飯盛地域は諫早市の南部に位置し、戦後橘湾に面する山林を開墾し造成され、国道251号線の両側に開けた標高130~150 mの台地で、恵まれた気象条件と変化に富んだ地形を生かして畑作を中心とした農業生産が展開され、バレイショ、ニンジンの国指定産地として県下でも有数の畑地帯である。

諫早市は昭和32年に大水害に見舞われたが見事に復興し、第24回国民体育大会(秋季)においては主競技場として脚光を浴び、ニュータウンの形成や「諫早中核工業団地」への企業群の進出、さらに、平成17年に1市5町(諫早市、西彼杵郡多良見町、北高来郡森山町、同郡飯盛町、同郡高来町および同郡小長井町)が合併し、平成26年の第69回国民体育大会が新競技場で開催されるなど、着実に歩みを進めている。

2. 土地改良区と事業推進

飯森南部・北部土地改良区は飯盛地域の畑地帯農業の振興に当たって、初代の山口理事長を中心に集落の皆さんと、サラリーマンと遜色のない農業所得を目指し、後継者に夢と元気を与える畑作農業の在り方について、生産コストの低減、水を使った畑作体系の確立、地元特産品の消費拡大と販路拡大などをとことん話し合ってきた。その結果の実現のために堆肥舎・準備休憩施設などを含めた畑地帯総合整備事業(担い手育成型)を申請し、経営構造対策事業・多面的機能支払交付金にも取り組んで事業を完成させ、県下に誇る畑地帯の農業を展開させている。

また、飯盛地域の下流では漁業が営まれており、農地造成による海の汚濁を防止するために、事業で実施する畑面の緩勾配化や排水路の整備・沈砂池のほか法面のグランドカバープランツに積極的に取り組み、漁民の方と話合いを持ち、海洋の汚濁防止問題を解決してきた。

さらに、造成された圃場の土壌管理のために、県・JA・土地改良区が一体となり、図-1のような土壌分析項目と目標値を設定して各圃場の分析結果を公表

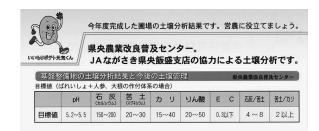


図-1 土壌分析の目標値と結果

し、そうか病対策も含めてより良い土壌管理を目指し ている。

3. 飯盛・有喜地域の畑地帯整備事業

飯盛地域の畑の整備は、県営畑地帯総合整備事業 (担い手育成型) で、飯盛北部地区 (A=102 ha、平成 $8\sim16$ 年)、飯盛北部 2 期地区 (A=31 ha、平成 $14\sim19$ 年)、飯盛南部地区 (A=183 ha、平成 $11\sim23$ 年)、合計 316 ha に 9.768 百万円を投じて行われた。

3 地区の事業効果を受け近接する有喜南部地区 (A=67 ha, 平成 26~32 年) では農業競争力強化基盤 整備事業が実施され,この地域において受益面積 383 ha の整備された畑地帯が出現することとなった。

(1) 区画整理 標準区画 100 m×30 m で実施されており、北部地区はなだらかな丘陵地帯だが、その他の地区は急傾斜地の区画整理となり 377 ha(北部 133 ha、南部 183 ha、有喜 61 ha)が造成された。

そのなかでも、南部地区の白木工区は、橘湾沿いで 3~8度の急勾配だが無霜地帯であり、良質のバレイ ショを最も早く出荷できる地域であるため、地元農家



写真-1 飯盛南部地区白木工区

の強い要望もあり、テラス幅 7.0 m、法高 3.0 m、道路とテラスの平面交差角 45 度、道路勾配 16%、階段型排水路を計画・実施し、「長崎県のだんだん畑十選」に選ばれている。

- (2) 畑地灌漑 水源は既設井戸を利用し、揚水ポンプによりファームポンドへ送水し各圃場へは、ポンプ圧送などにより配水し散水する。灌漑ブロックは井戸の能力および維持管理を考慮し 3~4 ブロックとなっている。
- (3) ハウス移転 カーネション、キクなどの施設 園芸作物施設の団地形成によって、農業生産法人など の組織経営体へ発展させ、土地利用型農業との調和の とれた土地利用の確立のため振興計画に基づきハウス が移設された。
- (4) 農業集落環境管理施設 畜産農家の家畜ふん 尿から良質の完熟堆肥を生産し、堆きゅう肥の有効利用・土づくりを促進するため、3カ所の堆肥舎が建設された。
- (5) **農作業準備・休憩施設** 圃場と集落が離れており、農作業環境の充実を図るため、トイレを含めた休憩設備が整備された。
- (6) 畑地灌漑料金制度導入事業 北部地区では、 畑地灌漑用水の使用量に応じて徴収するシステムの確立を試行的に実施している。

4. 「いさはやポテト元気くん」の産地強化

JA ながさき県央のパンフレットによると、飯盛・有喜地域のバレイショ「メークイン」は西日本一の産地となっており毎年約1万tを計画出荷している。このメークインは「いさはやポテト元気くん」のブランド名で出荷されており、市場でも高い評価が得られている。平成27年の春作バレイショは、基盤整備の強みを生かして、安定した品質と量の確保を行ったことで、市場の評価も高く過去にない高値を維持し、初めて20億円を超える快挙を達成した。

さらに、JA ながさき県央は、有喜南部地区と連携



写真-2 バレイショ収穫

して西日本最大級のバレイショ選果施設を整備し, 飯盛・有喜地域の元気な農業として紹介している。

また、諫早市内で生産されたものを販売し、消費者向けの情報発信を特徴とする、直売所「フレッシュ251」は平成10年に開店し、平成27年には売上1億円突破、平成28年には年間来場者11万8千人、平成29年時点で会員数が開店当時の約2.5倍に伸びている。

5. 基盤整備と地域農業の好循環

土地改良区は、ことあるたびに事業の進捗状況、土 壌分析結果と土壌管理、一時利用地指定、営農委員会 の情報、農政・営農情報を発信するとともに、農業改 良普及センターおよび農協と一体となって産地強化と 低コスト化の推進に努めてきた。

区画整理などにより, 労力軽減や灌漑による輪作体系の確立・連作障害の軽減で, 安定した品質・収量の 生産が実現している。

この地域の基盤整備効果の発現状況(平成 27 年)は、

- ① 主要作物の作付け拡大と新規作物の導入
- ② 作付け率が、整備前(平成8年)の1.4倍
- ③ 担い手経営面積が整備前の1.8倍
- ④ 担い手55戸のうち、30戸に後継者あり
- ⑤ 農業産出額が整備前から 7.9 億円増加
- ⑥ 担い手平均農業所得が整備前の2.9倍 などがあげられ、目を見張る成果をあげている。

6. むすびに

土地改良区の歴代の理事長は地域の農業リーダーでもあり、農業賞や県民表彰を受けており、今後地域の核となる土地改良区となり、ますます地域が活性化されることを期待している。

全国農業農村整備優良地区コンクールにおいて,このような飯盛地域の元気な農業が評価され,平成12年度に飯盛北部地区,平成21年度に飯盛南部地区が農村振興局長賞を受賞した。

飯盛・有喜地域の「いさはやポテト元気くん」に代表される農業は、土地改良区と関係機関の一体となった産地強化により、ますます上昇中で、この地域のさらなる活性化を願っている。

引用・参考文献

- 1) 長崎県農林部農村整備課:新耕地紀行 長崎県農業農村整備事業80年の歩み (2008)
- 2) 長崎県県央振興局: 飯盛北部地区・飯盛南部地区・有喜南 部地区事業パンフレット (2018)
- 3) 飯盛北部土地改良区:情報誌「牧野台地」12号(2003)